

高校教育におけるN I Eの実践に向けての研究

- 指導手引きの作成とその活用 -

高校教育研究会議

豊島 秀雄¹

家亀 照夫²

千葉 一哉³

半田 克利⁴

要 約

近年、生徒の活字離れが大きな問題になっているが、この活字離れ対策の一環として始まったN I Eが注目されてきている。N I E（エヌ・アイ・イー）とは「教育に新聞を」の意味で、新聞記事を教材にして授業を進めていく活動である。

平成 15 年 4 月より高等学校において新学習指導要領に基づく授業が始まった。今回の改訂では、自ら学び自ら考えるなどの「生きる力」の育成を基本としている。この「生きる力」の育成においては、新聞記事の活用を通して考える力を育てるN I Eの目指す方向と重なる部分があると言える。

そこで、本研究会議では、初めてN I Eを教科指導の中で実践しようと考えている教師のために、N I Eの指導手引きを作成し、その手引きをもとに授業計画を立て、市立高等学校（3 校）で授業（国語、理科、公民）を実施した。

指導手引きに基づいて授業実践を行った結果、指導手引きを構成するステップ表（学習活動を段階的にまとめたもの）などの活用において有効性が見られた。

キ - ワ - ド：N I E、指導手引き、ステップ表、教科指導、生きる力

目 次

主題設定の理由・・・・・・・・・・	74	研究のまとめ・・・・・・・・・・	86
研究の内容・・・・・・・・・・	74	1 研究を通して見えてきたこと	86
1 研究の方法・・・・・・・・・・	74	2 指導手引きの有効性について	87
2 N I E について・・・・・・・・	74	3 今後の課題・・・・・・・・	87
3 アンケートについて	76	参考文献・・・・・・・・	88
4 N I E の指導手引きについて	76	指導助言者・・・・・・・・	88
5 授業の実践と指導手引きの検証	80		
6 授業の実践から	81		

¹ 川崎市立川崎総合科学高等学校教諭（長期研修員）² 川崎市立高津高等学校教諭（研修員）

³ 川崎市立橘高等学校教諭（研修員）

⁴ 川崎市立商業高等学校教諭（研修員）

I 主題設定の理由

近年、生徒の活字離れが大きな問題になっている。毎日新聞社の「学校読書調査」(2003年版)によると、高校生が1ヶ月に読む書籍の平均冊数は1.5冊、1ヶ月に1冊も書籍を読まなかった割合は56%と高い数値を示している。

この活字離れ対策の一環として始まったNIEが注目されてきている。これは、新聞記事を教材にして授業を進めていく活動である。新聞記事は生徒の生活を取り巻く社会で起きている出来事や問題を取り上げており、文章の構成もしっかりしている。日頃から授業などで記事を読んだり、内容をまとめたりすることで、生徒の読解力、思考力や表現力を伸ばすことができると考える。

平成8年6月に中央教育審議会は「生きる力」の育成を打ち出した。学習指導要領の総則、教育課程編成の一般方針に、「学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない」¹⁾と述べられている。今回の学習指導要領の改訂の基本方針は、新聞記事の活用を通して考える力を育てるNIEの目指す方向と重なる部分があると言える。

平成15年4月より高等学校において、新学習指導要領に基づく授業がスタートしたところであるが、新設された教科「情報」でも、情報通信ネットワークだけでなく新聞などを活用した学習にも触れている。

そこで、本研究会議では初めてNIEを教科指導の中で行う教師のために、指導手引きを作成し、授業実践を通して、指導手引きの有効性を検証したいと考え、次の研究主題を設定した。

高校教育におけるNIEの実践に向けての研究 指導手引きの作成とその活用

II 研究の内容

1 研究の方法

研究主題を具体化するために、次のように研究を進めることにした。

- (1) NIEを教科指導の中で行うに当たり、既に報告されているNIEの活動実践例などを検討しNIEを実践していく上での共通理解を図る。
- (2) 研修員の所属する高校(3校)の生徒を対象に書籍、雑誌、新聞、テレビ、ラジオについてのアンケートを実施し、生徒の実態を把握する。
- (3) NIEの活動実践例などの検討内容をもとにNIEの指導手引きを作成する。
- (4) NIEの指導手引きを参考にして授業計画を立て、授業実践(国語、理科、公民)を行う。
- (5) 授業実践の結果を踏まえて、指導手引きの有効性について検証する。

2 NIEについて

(1) NIEとは

NIE(エヌ・アイ・イー)はNewspaper in Educationの略。「教育に新聞を」の意味で、新聞を教材として教育に活用する活動を言う。歴史的には、1930年代にアメリカで始まった運動である。1954

¹⁾文部省「高等学校学習指導要領解説 総則編」 東山書房 2001年 p.256

年にアメリカ合衆国、アイオワ州デモイン市の地元新聞社の職員が青少年の活字離れ・新聞離れを憂慮して、同市の中・高校生の調査を実施した。その結果、男子生徒の40%、女子生徒の33%が授業以外では文字を読まず、読んでいる生徒もテレビを見ている時間の方が多かった。そこで、1955年、全米教育協会の協力を得て、文字を読む対策として授業に新聞を活用するNIC (Newspaper in the Classroom = 教室に新聞を) 運動が始まった。1961年にはANPA (米国新聞発行者協会) が財団を設立し、教育界と新聞界にNICを積極的に紹介していった。1976年にANPA財団はNICを学校の授業だけでなく、成人教育のために生涯教育にも広げ、名称もNICからNIEに改称した。以来、NIEを全米の教育活動として教育界と新聞界が協力して推進している。²⁾

日本においては、日本新聞協会が1988年にNIE委員会を設置した。1989年に東京都内の小・中学校で実践研究が始まり、1994年からは全国的に実施されるようになった。日本新聞協会は1996年「NIE基金」を発足させ、NIEの推進を行ってきたが、1998年からは日本新聞教育文化財団がその業務を引き継ぎ、現在、日本新聞教育文化財団では、日本新聞博物館、新聞ライブラリーなどの運営、NIEの推進、新聞およびジャーナリズム全般に関する研究の4部門の活動を行っている。

日本のNIEの特徴のひとつは、各都道府県で教育界と新聞各社が協力し、NIE推進協議会を通してNIEを進めていることである。NIE推進協議会は、教育行政、学校、新聞各社の3者で構成され、平成15年7月現在、38都道府県に設置されている。一定の期間、新聞購読料の補助を受けてNIEを行うNIE実践校も増加の傾向にある。

(2) 神奈川県の高校におけるNIEの状況について

神奈川県では、1997年にNIE推進協議会が発足し、NIE実践校での活動を中心に実践校懇談会やセミナーなどの開催を行っている。高校でのNIEは、1997年以降の実践校数で見ると、1997年9校、1998年8校、1999年5校、2000年4校、2001年6校、2002年11校となっている。また、公立高校の他、私立高校での実践も報告されている。

(3) NIEの教育効果

NIEは、1989年以来、今日まで全国の多くの教師によって実践報告がされてきている。新聞を活用している教科などに関して、高校では「地歴・公民」(51.6%)が最も多く、ついで「国語」(47.3%)、「特別活動」(29.1%)、「総合的な学習の時間」(11.0%)、「保健体育」(4.4%)、「理科」「外国語」「家庭」(ともに3.3%)、「数学」(1.1%)の順になっている。³⁾

「なぜ、新聞なのか?」について、NIEコンサルタントの妹尾 彰氏は、次のように新聞活用の教育効果を掲げている。⁴⁾

最新の情報が得られ国内外の社会を知ることができる。社会への関心や国際理解が深まる。

情報を選択し活用する能力が付く。

文章を読み書く能力が付く。新聞の役割や重要性が理解できる。いろいろな見方や考え方があることに気付く。

豊かな思考力や独創性を育成できる。

幅広い人間教育に役立つ。

教室と家庭を結び付ける。

授業が生き生きする。

²⁾ 妹尾 彰「改訂版NIE実践ヒント・ワークシート」 晩成書房 2000年 p.24

³⁾ 「NIE実践効果測定調査結果報告(2002年7月)」 日本新聞教育文化財団NIE委員会 p.20

⁴⁾ 妹尾 彰「NIEワークシート100例」 晩成書房 2002年 p.7

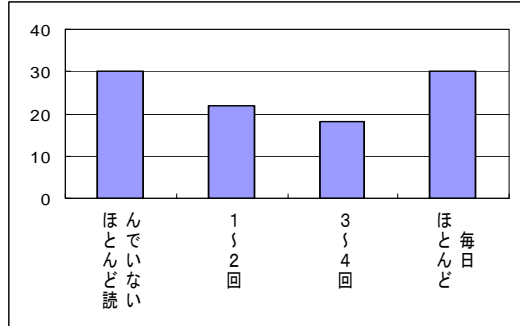
3 アンケートについて

各研修員の所属する川崎市立A、B、C高校の生徒203名を対象に、新聞とのかかわりについて生徒の実態を把握し、本研究の基礎資料とするため、アンケートを平成15年6月に実施した。

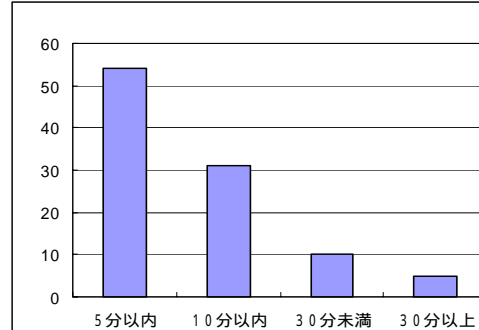
(1) アンケート結果

(グラフの数字は%)

・1週間に何回くらい新聞を読みますか。



・新聞を1回読むのにどのくらい時間をかけますか。



・新聞のどんな紙面(記事)を読みますか。(複数回答)

テレビ番組(145) スポーツ(56) トップニュース(19) マンガ(16) 天気予報、芸能(各13) 地域版、政治・経済(各12) 社会面(3) 投書欄、小説、読書(各2) 囲碁将棋、ファッション、株、クイズ、見出し、気になる記事、社説(各1)

(2) 調査の結果から(新聞に関することを中心に)

テレビ番組やスポーツ欄以外の紙面を生徒が興味をもって読むようになるためには、生徒に新聞を用いた授業を展開していくことが必要である。そのためにも、新聞記事の「読み方」について具体的な手立てを授業の中で取り入れていくことが重要である。

4 NIEの指導手引きについて

本研究会議では、初めてNIEを教科指導の中で行う教師向けに指導手引きを作成した。指導手引きは、次の(1)～(4)の4項目で構成され、NIEでの留意点や具体的な指導計画を作成する際に参考となる活動内容をまとめたものである。以下、具体的に説明すると次のようになる。

(1) NIEを実践するに当たっての留意点

①新聞記事の収集・保存

- ・教師側では、教材として使えるような記事を日頃から切り抜き、スクラップノートを作成しておくといよい。(生徒にもスクラップノートを作らせてもよい。)
- ・新聞は一般紙を使用し、特定の新聞(政党や宗教関係)は避けるようにする。

②生徒の活動

- ・生徒の活動は一斉学習だけでなく、グループ学習も取り入れる。
- ・最初は教師の用意した記事を使用してもよいが、生徒が記事を選んでもよい。
- ・必要に応じて、複数の新聞を比較して読む活動を取り入れるようにする。
- ・生徒がワークシートに記入したり、考えや意見を発表したりする時間を確保しておく。

③指導計画と評価

- ・各教科の指導計画の中で、新聞記事を計画的に授業に取り入れることが必要である。
- ・NIEの評価方法について確認しておく。

(2) 学習活動のステップ表

学習活動のステップ表(78ページ参照)は、指導手引きの中心をなすものである。ステップ表の左側に新聞紙面の分類が書かれている。新聞各紙の紙面の表示を検討し、次のようにNo.1~No.20の紙面に分類した。

1. 一面記事	2. 総合	3. 国際	4. 政治	5. 経済	6. 医療、健康	7. 福祉
8. 教育	9. 科学	10. 文化、歴史、芸術	11. 地域	12. 社会	13. 暮らし、家庭、趣味	
14. スポーツ	15. コラム、社説、解説	16. 投書欄、人生相談	17. 報道写真	18. 広告		
19. マンガ	20. テレビ、ラジオ番組欄					

ステップ表の横は、NIEの具体的な活動を示した。新聞記事を使った学習活動を段階的に提示することにより、学習指導案やワークシートを作成する時に役立つのではないかと、との考えをもとに3つのSTEPを設定した。STEP1では、新聞記事の内容を理解することから始める。STEP2では、内容をさらに把握するために自分なりにまとめる。STEP3では、記事についてまとめた内容や生徒自身の考え(意見)について発表する。発表以外に、書いて報告したり、生徒から出た考え(意見)についてクラスなどで議論したりする活動も取り入れるようにした。

各STEPのねらいと学習活動は、次のとおりである。

	ね ら い	学習活動
・STEP1	・教材として、タイムリーな話題を提供できるので、生徒の興味・関心を高めることができる。	・記事を読んで内容を理解したり、関連記事について調べたりする。
・STEP2	・記事の内容をまとめることを通して、理解が深まり、生徒自身が意見などをもつことにつなげることができる。	・記事の内容について自分なりに理解したり、調べたことを自分なりにまとめたりする。
・STEP3	・自分の考え(意見)をもつことができる。 ・自分の考え(意見)を発表(報告、討論)することができる。 ・発表(報告、討論)を通して、他の生徒の考え(意見)を知ることができる。	・記事の内容についてまとめたり、自分の考え(意見)について発表(報告、討論)したりする。

なお、紙面のNo.1~No.15については、各STEPの学習活動を見出しの扱い、リード文の扱い、記事(本文)の扱い、写真の扱いに分けた。

学習活動のステップ表

NO	紙 面	主な内容	STEP 1	STEP 2	STEP 3
1	一面記事	共 通	①見出しの扱い ア) 興味のある見出しを選ぶ。 イ) 同じ内容を扱っている記事について複数の新聞の見出しを書き出す。	①見出しの扱い ア) 見出しを参考にして記事の内容をまとめる。 イ) 同じ内容について扱っている記事の量や主張の違いなどを複数の新聞を用いて調べる。	①見出しの扱い ア) まとめたことについて発表(報告、討論)する。 イ) 調べたことについて発表(報告、討論)する。
2	総 合	総合面全般			
3	国 際	国連・国際紛争など			
4	政 治	法律・国会・選挙・首相(党首)の動静など			
5	経 済	ビジネス・会社・株・新商品の紹介など	②リード文の扱い ア) リード文の内容を読む。 イ) キーワードに注意して読む。	②リード文の扱い ア) リード文の内容についてまとめる。 イ) リード文の内容を箇条書きで書く。 ウ) リード文の見出しを考える。	②リード文の扱い ア) まとめたことについて発表(報告、討論)する。 イ) 見出しについて発表(報告、討論)する。
6	医療、健康	エイズ・がん・生活習慣病など			
7	福 祉	ボランティア・介護など			
8	教 育	学校・入試・就職など	③記事(本文)の扱い ア) 内容について意味をつかむ。 イ) 5W1Hを用いて内容を理解する。 ウ) 内容について不明な点(語句など)の意味を調べる。 エ) 記者などの意見(提案、主張)の箇所を指摘する。 オ) 統計・資料・グラフなどについて読む。	③記事(本文)の扱い ア) 内容についてまとめる。 イ) 内容について自分の考え(意見)をまとめる。 ウ) 内容について表や図にまとめる。 エ) 問題点(原因)や解決策を考える。 オ) 記者などの意見(提案、主張)について自分の意見(考え)をまとめる。 カ) 記者などの意見(提案、主張)についてまとめる。 キ) 統計などから読み取れることをまとめる。	③記事(本文)の扱い ア) まとめたことについて発表(報告、討論)する。 イ) 自分の考え(意見)について発表(報告、討論)する。 ウ) 記者などの意見と自分の意見について同じ点、異なる点を発表(報告、討論)する。 エ) 問題点(原因)や解決策について発表(報告、討論)する。 オ) 資料などから読み取れることについて発表(報告、討論)する。
9	科 学	情報・コンピュータ・遺伝子など			
10	文化、歴史、芸術	文芸・古典芸能・歴史・芸能界など			
11	地 域	地域の関連記事			
12	社 会	事件・事故・火事・死亡記事など			
13	暮らし、家庭、趣味	生活のヒント・住まい・碁・将棋			
14	スポーツ	選手・サッカー・オリンピックなど	④写真の扱い ア) 写真を見て、気付いたことを言う。	④写真の扱い ア) 写真について気付いたことをまとめる。 イ) 写真が訴えていることをまとめる。 ウ) 写真の見出しを考える。	④写真の扱い ア) まとめたことについて発表(報告、討論)する。 イ) 見出しについて発表(報告、討論)する。
15	コラム、社説、解説	共 通			
16	投書欄、人生相談	共 通	ア) 記事を読んで、内容を理解する。	ア) 自分の考えをまとめる。 イ) 相談の記事については自分なりの助言を書く。	ア) まとめたことについて発表(報告、討論)する。
17	報道写真	共 通	ア) 写真を見て、気付いたことを書き出す。	ア) 写真が訴えていることをまとめる。 イ) 写真の見出しを考える。	イ) 自分の考え(意見)について発表(報告、討論)する。
18	広 告	共 通	ア) 広告を見て、感じたことを言う。 イ) どんな広告が多いかを考える。	ア) 自分の考えをまとめる。 イ) テレビのCMとの違いをまとめる。	
19	マンガ	共 通	ア) 空欄にした吹き出し(せりふ)の部分に入ることを考える。	ア) 4コママンガ、時事風刺マンガについてどこが面白いのかをまとめる。	
20	テレビ、ラジオ番組欄	共 通	ア) 各放送局で取り上げている番組について調べる。	ア) どんな内容の番組が多く放送されているのかをまとめる。	

*上のステップ表をもとに、指導計画を立てる。

*STEP 1、2、3と進むことが望ましいが、記事の内容によって組み合わせを変えてもよい。

*生徒の学習形態—新聞記事により一斉学習またはグループ学習を行う。

*評価方法—生徒による評価(自己評価または相互評価)及び教師による評価。

(3) 「学習活動のステップ表」の活用例

次の新聞記事をもとにステップ表を用いた活用例を示す。(ステップ表からの活用箇所については、ステップ表の の部分を参照のこと)

7. 福祉

の自選しをして盲導犬と一緒に歩く体験をする子どもたち。イベントで盲導犬と触れ合う子どももいっぱい。神奈川川崎臨海緑地で

広がる「共生」のステージ




「盲導犬は目」歩いて実感 ハリス介し信頼感/周囲のマナーも必要

【北の川】「目」が通じない人々の生活を支える盲導犬。その役割は、視覚障害者の安全な移動を確保すること。盲導犬は、訓練士やボランティアの指導を受け、視覚障害者の足元や障害物を知らせる。また、周囲のマナーを伝える役割も果たしている。

「目」が通じない人々の生活を支える盲導犬。その役割は、視覚障害者の安全な移動を確保すること。盲導犬は、訓練士やボランティアの指導を受け、視覚障害者の足元や障害物を知らせる。また、周囲のマナーを伝える役割も果たしている。

「目」が通じない人々の生活を支える盲導犬。その役割は、視覚障害者の安全な移動を確保すること。盲導犬は、訓練士やボランティアの指導を受け、視覚障害者の足元や障害物を知らせる。また、周囲のマナーを伝える役割も果たしている。

身体障害者補助犬法
きょう完全施行

朝日新聞(平成15年10月1日)

写真の活用例

写真を見て、思ったことをまとめ、まとめたことを発表する活動を取り入れたい場合

- ・ステップ表のSTEP 2から「写真の扱い」の中のア(写真について気付いたことをまとめる)を選択。【STEP 2をS 2とし、S 2 アと略して学習指導案の備考欄に記入】
- ・ステップ表のSTEP 3から「写真の扱い」の中のア(まとめたことについて発表する)を選択。【STEP 3をS 3とし、S 3 アと略して学習指導案の備考欄に記入】

記事(本文)の活用例

記事(本文)を読んで、内容をまとめ、まとめたことを発表する活動を取り入れたい場合

- ・ステップ表のSTEP 1から「記事(本文)の扱い」の中のア(内容について意味をつかむ)を選択。【STEP 1をS 1とし、S 1 アと略して学習指導案の備考欄に記入】
- ・ステップ表のSTEP 2から「記事(本文)の扱い」の中のア(内容についてまとめる)を選択。【STEP 2をS 2とし、S 2 アと略して学習指導案の備考欄に記入】
- ・ステップ表のSTEP 3から「記事(本文)の扱い」の中のア(まとめたことについて発表する)を選択。【STEP 3をS 3とし、S 3 アと略して学習指導案の備考欄に記入】

(4) 学習指導案・ワークシート例

学習活動のステップ表をもとに、79 ページの新聞記事を用いた学習指導案とワークシート例を示す。

公民（倫理）指導案

授業者（ ）

・実施校 川崎市立 高等学校
 ・日時 平成 年 月 日（ ） 校時（ - ）
 ・場所 年 組 教室
 授業のねらい
 (1)写真の内容について考えることができる。
 (2)身体障害者補助犬の種類と仕事を理解する。
 (3)身体障害者補助犬法の内容を理解する。
 (4)身体障害者補助犬（法）について、自分の考えをまとめて適切に発表できる。

授業構成

指導内容	学習活動	備考 (ステップ表から)
1. (写真の部分を配付する) 写真を見て、思ったことをまとめる。	・写真を見て、思ったことをまとめる。 ・自分でまとめたことを発表する。	(S2 ア) (S3 ア)
2. (新聞記事を配付する) 身体障害者補助犬の種類と仕事を理解する。	・記事(本文)を読み、身体障害者補助犬の種類と仕事についてまとめる。 ・まとめたことを発表する。	(S1 ア) (S2 ア) (S3 - ア)
3. 身体障害者補助犬法の内容を理解する。	・記事(本文)を読み、身体障害者補助犬法についてまとめる。 ・まとめたことを発表する。	(S1 - ア) (S2 ア) (S3 - ア)
4. 記事全体を読んで、身体障害者補助犬（法）について自分の考えをまとめ、発表する。	・身体障害者補助犬（法）について自分の考えをまとめる。 ・まとめたことを発表する。	(S2 - イ) (S3 - イ)

評価の観点
 (1)写真の内容について考えることができたか。
 (2)身体障害者補助犬の種類と仕事について理解できたか。
 (3)身体障害者補助犬法の内容について理解できたか。
 (4)身体障害者補助犬（法）について、自分の考えをまとめて適切に発表できたか。

「身体障害者補助犬法」ワークシート

年 組 番 氏名（ ）

- 写真を見て、思ったことをまとめてみよう。
- 身体障害者補助犬の種類と仕事について、()内に適する語句を記入しなさい。
 (1) ()犬は()者を誘導する。
 (2) ()犬は()者の手足となって働く。
 (3) ()犬は()者に音を知らせる。
- 「身体障害者補助犬法」はどのような法律ですか。()内に適する語句を記入しなさい。
 「補助犬」の育成などを進め、障害者の自立や社会参加を促すために制定された。
 補助犬法は、身体障害者補助犬の()事業者や使用者の()を定める。
 また、身障者が公共的施設や公共交通機関などを利用する際、受け入れ側が身障者補助犬の()を拒否できない。
 〇2年10月に施行。〇3年10月からの完全施行で、レストラン・ホテル・デパートなど()にも対象が広がられる。
- 身体障害者補助犬（法）について、自分の考えをまとめてみよう。

=自己評価= A：よくできた B：普通 C：あまりできなかった

	評価の観点	評価
1	写真の内容について考えることができたか。	A B C
2	身体障害者補助犬の種類と仕事について理解できたか。	A B C
3	身体障害者補助犬法の内容について理解できたか。	A B C
4	身体障害者補助犬（法）について、自分の考えをまとめて適切に発表できたか。	A B C

=新聞を使った授業の感想=

5 授業の実践と指導手引きの検証

(1) 授業実践のねらい

使用する新聞記事の内容をもとに指導手引きから学習指導案及びワークシートを作成し、授業実践（国語、理科、公民）を踏まえて指導手引きの有効性を検証する。

(2) 検証方法

下記のように教師及び生徒の両面から検証を行う。

・教師

授業前	・指導手引きをもとに、学習指導案・ワークシートの作成
授業時	・VTRでの記録（後日、再視聴）
授業後	・授業評価表1及び2（82ページ参照）の記入 ・抽出生徒（3名）への面接 抽出生徒については、平成15年度の1学期評定（研修員が教える教科指導での5段階評価）により、評定5又は4の生徒を「生徒1」、評定3の生徒を「生徒2」、評定2又は1の生徒を「生徒3」とした。
その他	・アンケート調査（6月実施）

・生徒

授業時	・ワークシートへの記入（学習活動内容・自己評価表・感想欄）
授業後	・抽出生徒への教師による面接
その他	・アンケート調査（6月実施）

6 授業の実践から

(1) 川崎市立A高校での実践—国語

①新聞記事



廊の柱やすだれを使って、風通しをよくした室内（東京都中央区の松村さん宅）

京に学ぶ 納涼の極意

暑い暑い夏の間、エアコンの冷房も頼りない時代が、人々はどのような涼を求めたのか。その答えは、京都の町家にある。町家の納涼の極意を、兼好法師の『徒然草』から読み取る。

兼好法師の『徒然草』は、室町時代（14世紀後半）の著作で、夏は暑いから涼を求めたい、という気持ちが、この文章に込められている。兼好法師は、涼を求めたいという気持ちを、涼を呼ぶという行為に託している。涼を呼ぶという行為は、涼を呼ぶという行為に託している。涼を呼ぶという行為は、涼を呼ぶという行為に託している。

室内暗めに 緑を生かして



障子の向こう、中庭の緑をゆかにみえる

兼好法師の『徒然草』は、涼を呼ぶという行為に託している。涼を呼ぶという行為は、涼を呼ぶという行為に託している。涼を呼ぶという行為は、涼を呼ぶという行為に託している。

兼好法師の『徒然草』は、涼を呼ぶという行為に託している。涼を呼ぶという行為は、涼を呼ぶという行為に託している。涼を呼ぶという行為は、涼を呼ぶという行為に託している。

日本経済新聞（平成15年7月12日）

②学習指導案とワークシート

国語科（国語総合）指導案 授業者（ ）

・実施校 川崎市立A高等学校
 ・日時 平成15年10月15日（水）4校時（11:50～12:40）
 ・場所 1年1組教室
 授業のねらい
 (1) 現代に通じる納涼を呼ぶ知恵を「記事」をもとに理解する。
 (2) 記事の感想・意見を書く。

授業構成

指導内容	学習活動	備考 (ステップ表から)
1. リード文から、昔の人はどのように過ごしてきたのか、文学作品や町家のつくり、しきたりから納涼の知恵を探ることを理解する。	・リード文を読み、昔の時代・人から現代に通じる涼感を呼ぶ題材を三つ抜き出す。	(S1 - ア) (S2 - イ)
2. 見出し「兼好法師の知恵」の住宅論を読み取る。	・徒然草の本文を読み、兼好法師の一番言いたいところを抜き出す。	(S2 ア)
3. 見出し「兼好法師の知恵」の本文 町家に住む松村邸の納涼のしくみ・しきたりを読み取る。	・松村邸の記事（本文）を読み、具体的に町家の納涼のしくみ・しきたりをまとめる。	(S2 ア)
4. 見出し「芭蕉の知恵」の本文から納涼の知恵を読み取る。	・芭蕉の知恵の本文から記者の一番伝えたいところを抜き出す。	(S2 ア)
5. 見出し「谷崎の知恵」の本文から納涼の知恵を読み取る。	・谷崎の知恵の本文から記者の一番伝えたいところを抜き出す。	(S2 ア)
6. 新聞を読んで、現代に通じる涼感の知恵について、感想・意見を書く。	・記事に対する自分の感想・意見を書く。 ・発展学習として「私の納涼」について書く。	(S2 イ)

評価の観点
 (1) 現代に通じる納涼を呼ぶ知恵の「記事」について理解できたか。
 (2) 記事の感想・意見が書けたか。

「京に学ぶ納涼の極意」ワークシート

年 組 番 氏 名 ()

リード文を読んで、記者のあげた涼感と呼ぶ知恵の「材料」を三つ書き出す。
 京に涼のある () や () ()

見出し「兼好法師の知恵」
 徒然草の本文を読み、兼好法師の一番言いたいところを抜き出す。

松村邸の記事（本文）を読み、具体的に町家の納涼のしくみ・しきたりの要点をまとめる。
 ・しくみ
 ・しきたり

見出し「芭蕉の知恵」
 「芭蕉の知恵」の本文から、記者の一番伝えたいところを抜き出す。

見出し「谷崎の知恵」
 「谷崎の知恵」の本文から、記者の一番伝えたいところを抜き出す。

大見出し「京に学ぶ納涼の極意」の記事
 「京に学ぶ納涼の極意」（全体）を読んで、感想・意見を書く。（実際にやっていること・考えたことがあればそれも書こう。）

=自己評価=A:よくできた B:普通 C:あまりできなかった

	評価の観点	評価
1	記事の内容（事実）が読み取れたか。	A B C
2	記事に対する感想・意見が書けたか。	A B C

=新聞を使った授業の感想=

③授業を終えて

ア 授業評価表 1 (教師用)

《ワークシート》 A : 良い B : 普通 C : 要検討 (理由を書くこと)

No.1	ステップ表からの活用箇所	S 1 - ア、S 2 - イ
	活用箇所の有効性	A C
No.2	ステップ表からの活用箇所	S 2 - ア
	活用箇所の有効性	A C
No.3	ステップ表からの活用箇所	S 2 - ア
	活用箇所の有効性	A C
No.4	ステップ表からの活用箇所	S 2 - ア
	活用箇所の有効性	A C
No.5	ステップ表からの活用箇所	S 2 - ア
	活用箇所の有効性	A C
No.6	ステップ表からの活用箇所	S 2 - イ
	活用箇所の有効性	A C

《指導手引きについて》

全体から見た指導手引きの活用度	A C
-----------------	-----

《授業全体について》

学習指導案 (指導過程) は	A C
生徒の学習活動は	A C
新聞記事の内容は	A C

《授業者より》

- ・準備した「涼しさの知恵」は興味をもっていた様子がうかがえた。季節の話題 (暮らし) としては授業実施時の時間とズレがあったので、新聞記事の新鮮さを扱うという意味では難しかった。
- ・活用箇所の有効性・活用度のものさしは理解できたが、何を評価しているのか、よく把握できないでいる。

イ 授業評価表 2 (生徒用)

《生徒の自己評価の集計》 生徒数 (38) 名

	A	B	C
No.1	10	25	3
No.2	7	27	4

《生徒の感想から》

- ・普段、あまり新聞を読まないで、今日の授業を通してもう少し新聞を読む時間を自分なりに作って、いろいろな事柄について考えられたらいいと思った。
- ・新聞から物事を読み取るのは初めてで、とても難しかったが、内容は興味深かったです。
- ・内容は昔の人がどういった知恵を使っているかが分かってよかった。
- ・ワークシートにそってやっていくうちにだんだんと内容が理解できたような気がした。
- ・教科書をするのと違って、いろいろと考えさせられる授業でした。

《抽出生徒への面接》

生徒 1	No.1	No.2
	B C	B C
	<p>生徒の感想 初めて新聞を使った授業をしましたが、もともと新聞をよく読むので、この授業はとても楽しかったです。機会があれば、また何回かこの授業をやってほしいと思います。 この授業は読解力がつくと思うのでよいと思う。</p> <p>面接記録 楽しかった。新聞を読むのが好きなので、教科書と違う内容のものを読んで、感じるいろいろな事柄があった。中3の頃から読んでいる。テレビ、スポーツ欄から興味をもった。</p>	
生徒 2	No.1	No.2
	A C	A C
	<p>生徒の感想 新聞を使って意見を書いたりするのは意外と難しいことだと思いました。普段の授業とは違い、自分でまとめて書くということで少し難しかったが、よく理解できた。あの新聞の文章をよんでいると京都に行きたくなった。</p>	

	面接記録 普段、新聞を読まないが、自分で読んでよく読み取れた。工夫をしてすごいなと思った。	
生徒3	No.1	No.2
	A C	B C
	生徒の感想 いつもと違った授業で楽しかった。普段、新聞を読まないのが良かった。読むのが遅いので大変でした。	
	面接記録 まったく読んでいないので、新聞を読んで結構集中して読めた。自分の家も夏にすだれをかけるので、興味をもてた。	

④授業を通しての考察

- ・単元に合った記事の選択に時間がかかったので、普段から新聞のスクラップノートの作成に心掛けるようにする。
- ・記事の内容理解については、生徒の生活体験もかかっていると思える。
- ・記事の内容が難しい場合には、ワークシートなどでの工夫が求められる。
- ・生徒がワークシートで活動する時間を確保することが望まれる。また、生徒がワークシートの指示に沿って、まとめたことを発表したりする場の時間にも配慮する必要がある。

(2) 川崎市立B高校での実践—理科

①学習指導案

理科(3年選択物理)指導案		
授業者()		
・実施校 川崎市立B高等学校 ・日 時 平成15年9月8日(月) 1校時(8:55-9:40) ・場 所 地学教室		
授業のねらい (1) 2学期最初の授業の導入として、実際に起こる物理現象から以前(1年次)に学習した内容を復習する。 (2) 記事の内容(事実)を読み取る。 (3) 運動エネルギーについて復習する。		
授業構成		
指導内容	学習活動	備考(ステップ表から)
1. 記事の内容をまとめる。 記事の要約を発表する。	・記事を読み何が起こったかまとめる。 ・記事の要約を発表する。	(S1 - ア) (S2 - ア) (S3 - ア)
2. 事故の結果を読み取る、あるいは予想する。	・事故結果がどうなったかまとめる。	(S2 イ) (S3 - イ)
3. 発展として問題演習をする。	・運動エネルギーの問題を解く。	
評価の観点 (1) 「記事の内容」を理解できたか。 (2) 「運動エネルギー」について理解していたか。		

②新聞記事とワークシート

「運動エネルギーの復習」ワークシート
年組番氏名()

1. いつ、どこで何が起こったか簡単にまとめてみよう。
2. 衝突の結果、石や列車はどうなった(と、考えられるか)。
3. 静止した石130kgに時速60kmで走っている100tの列車が衝突したとする。(摩擦はないものとする。)
 - (1) 衝突前列車が持つエネルギーはいくらか。
 - (2) 衝突後、列車の持つエネルギーはすべて石に渡ったとすると石の速さはいくらになるか。

=自己評価= A:よくできた B:普通 C:あまりできなかった

	評価の観点	評価
1	記事の内容を理解できたか。	A B C
2	運動エネルギーについて理解していたか。	A B C

=新聞を使った授業の感想=

読売新聞(平成15年7月20日)

③授業を終えて

A 授業評価表1(教師用)

《ワークシート》 A:良い B:普通 C:要検討(理由を書くこと)

No.1	ステップ表からの活用箇所	S1 - ア、S2 - ア、S3 - ア
	活用箇所の有効性	A C
No.2	ステップ表からの活用箇所	S2 - イ、S3 - イ
	活用箇所の有効性	A C

《指導手引きについて》

全体から見た指導手引きの活用度	A C
-----------------	-----

《授業全体について》

学習指導案(指導過程)は	A B	記事と授業との関連性に無理がある。
生徒の学習活動は	A C	
新聞記事の内容は	A B	物理の基礎という観点から難がある。

《授業者より》

- ・現実の新聞記事の複雑さと高校物理で扱う単純化された事実との間には開きがある。
- ・授業の進度とは無関係なため「記事を使う」という点で問題があった。
- ・ステップ表の内容について再度、確認する必要があると思う。
- ・授業の内容に沿った記事をさがすことが課題である。

《生徒の自己評価の集計》 生徒数 (5) 名

	A	B	C
No.1	2	2	1
No.2	0	2	3

《生徒の感想から》

- ・やる気が出ればもっと良い結果が得られた。
- ・結構忘れていた。
- ・考えるのは楽しいが、分からないことが多かった。授業は1学期と違った感じで良かった。

《抽出生徒への面接》

生徒1	No.1	No.2
	B C	A C
	生徒の感想 楽しかったと思う。 面接記録 記事のまとめはできている。単位変換は多少とまどいはしたが、エネルギー計算の仕方は覚えていた。	
生徒2	No.1	No.2
	A C	A C
	生徒の感想 普段の出来事を題材にするのは良いことだと思います。でも、物理における単位変換を最初忘れていた。 面接記録 単位変換を忘れてしまった。	
生徒3	No.1	No.2
	A C	A C
	生徒の感想 文章を解釈するのが難しかった。 面接記録 新聞記事の内容をまとめることが不得意である。	

④授業を通しての考察

- ・教科指導の中で新聞記事を使いたい時に記事がなかったり、授業で使える記事があった時にすでに単元が終わってしまっていたり、記事を使用するタイミングのずれを感じた。このことを防ぐためにも、年間指導計画とのかかわりの中で、計画的にNIEを取り入れた指導計画を立てておくが必要である。
- ・教科によっては適する新聞記事を見つけることが難しいものがある。日頃から教科に関する新聞記事の収集に心掛け、場合によっては、授業に関係する記事を生徒に持参させることも考えられる。
- ・ワークシートの作成に当たっては、生徒にとって記入しやすいものになるように心掛け、必要に応じてヒントを与えるなどの配慮を取り入れたい。
- ・ワークシートに生徒が記入する時間や記事について、生徒自身の考えなどを発表させる時間の確保も指導過程の中に取り入れておくが必要である。

(3) 川崎市立C高校での実践—公民

①新聞記事



毎日新聞 (平成15年8月1日)



毎日新聞 (平成13年9月16日)

②学習指導案とワークシート

公民（倫理）指導案
授業者（ ）

・実施校 川崎市立C高等学校
・日時 平成15年9月26日（金） 4校時（20:05～20:45）
・場所 4年D組教室
授業のねらい
(1) ボランティア活動の意味と性格を理解する。
(2) 「ボランティア活動」の新聞記事を読み、ボランティアについて考える。
授業構成（本時 2時間扱いの2時間目）

指導内容	学習活動	備考 (ステップ表から)
1. ボランティア活動の意味を理解する。	・教科書を読み、ボランティア活動の意味をまとめる。	
2. ボランティア活動の性格を理解する。	・板書した内容をまとめる。	
3. 新聞記事の内容及びボランティア活動の様子をまとめる。	・配付した記事（本文）を読み、実際にボランティア活動をしている人の様子を知る。	(S1 - ア)
4. ボランティア活動について考える。	・ボランティア活動について自分の考えをまとめる。 ・ ・	(S2 - ア)

評価の観点
(1) ボランティア活動の意味を理解できたか。
(2) 新聞記事の内容を読み、理解することができたか。
(3) ボランティアについて考えることができたか。

「ボランティア活動」ワークシート
年組番氏名（ ）

- ボランティア活動とはどんな活動ですか。
ボランティア活動とは、市民が市民のために（ ）的に行う（ ）の奉仕活動である。
- ボランティア活動の性格をまとめよう。
- 新聞記事を読み、まとめてみよう。
市民ボランティアたちは、世界貿易センタービル崩壊現場でどのような活動を行っていますか。

吉村さんは、被災地でどのような活動を行っていますか。

吉村さんは、なぜ被災者に感謝したのだからう。
- あなたのボランティア体験や、ボランティアに対するあなたの考え(意見)をまとめてみよう。

=自己評価= A:よくできた B:普通 C:あまりできなかった

	評価の観点	評価
1	ボランティア活動の意味を理解できたか。	A B C
2	記事の内容を理解できたか。	A B C
3	ボランティアについて考えることができたか。	A B C

=新聞を使った授業の感想=

③授業を終えて

ア 授業評価表1（教師用）

《ワークシート》 A：良い B：普通 C：要検討（理由を書くこと）

No.3	ステップ表からの活用箇所	S1 - ア、S2 - ア	
	活用箇所の有効性	A C	質問項目が少なかった。
No.4	ステップ表からの活用箇所	S2 - イ	
	活用箇所の有効性	B C	生徒がよく取り組んでいた。

《指導手引きについて》

全体から見た指導手引きの活用度	A C	内容理解と意見のまとめが中心になった。
-----------------	-----	---------------------

《授業全体について》

学習指導案（指導過程）は	A C	
生徒の学習活動は	A C	
新聞記事の内容は	B C	生徒の反応がよかった。

《授業者より》

- ・以前はただ読んで穴埋めと要約で終わっていたが、指導手引きを活用して生徒の考え（意見）を知ることができた。
- ・今回は記事の内容理解と自分の意見をまとめることを主な目的としたが、活用の仕方によっては違った展開になったかもしれない。（他の指導パターンを考えることができた）
 難しい語句について意味を理解する。（S1 - ウを活用）
 写真を見せて、記事の内容を想像する。（S1 - アを活用）
 高校生の記事で、「感謝するのは・・・」の部分を生徒が考える。（S1 - イを活用）
- ・S3の発表まで進めばさらに良かったが、生徒の実態を考えれば難しい面もある。
- ・記事の量に関しては、生徒の理解力、時間配分など、いろいろな点を考えて準備したい。
- ・生徒は自分の意見をもっていることがわかった。
- ・2つの記事（アメリカのボランティアと日本の高校生のボランティア）を活用した。
- ・新聞の記事（素材）の選定は大切である。

イ 授業評価表2（生徒用）

《生徒の自己評価の集計》 生徒数（ 9 ）名

	A	B	C
No.3	4	5	0
No.4	4	5	0

《生徒の感想から》

- ・新聞の方がやりやすい。分かりやすい。
- ・声が聞きやすい。
- ・身近な話という問題で分かりやすく、また創造性が必要なことと思います。
- ・あらためてボランティア活動のすばらしさが分かった。学校行事の中でもボランティアについて考えるというような機会ができたと思った。
- ・無記入

《抽出生徒への面接》

生徒 1	No.3	No.4
	B C	B C
	生徒の感想 ボランティアと聞くようになったのは最近のことですが、助ける喜び、助けられるありがたみがよく分かる新聞内容でした。その度に新しい声が聞けるのは新聞ならでは楽しいです。	
面接記録 普段新聞を読む時間がないので、いい機会である。皆で同じ新聞を読み、共通の話題で話しあったり、人の考えを知ることができて良い。内容に関しては理解している。		
生徒 2	No.3	No.4
	A C	A C
	生徒の感想 大変良いが日頃から我々が社会に関心を持ち、深く考えねばならないと痛感した。	
面接記録 新聞は難解だが、大変ためになる。内容が深く広いので「普通」に をした。社会事象に関心が高い。		
生徒 3	No.3	No.4
	A C	A C
	生徒の感想 ボランティア活動に性格が4つもあるとは思わなかった。私も何かボランティアをやってみたいと思った。	
面接記録 新聞を使った授業は分かりやすいし、ためになる。何となく「普通」に をしてしまったようであるが、理解はしている。		

④授業を通しての考察

- ・教科指導に直結した記事(素材)を用いることが効果的であるが、教科によっては記事が少ないものもあるので、改めてスクラップノート作成など、記事の保存の必要性を痛感した。
- ・指導計画の中で、生徒それぞれの活動の時間確保について検討する必要がある。
- ・継続して新聞記事を使用した授業実践に心掛けることが大切である。そうすることによって、指導手引きに沿って指導計画を立てる際にもいろいろと発展的な活動が考えられるようになる。
- ・生徒自身の考えや意見を引き出すような授業計画に心掛け、特に、ワークシート作成においては工夫を取り入れることが重要である。
- ・今回、2つの新聞記事を使用して授業を行った。テーマについて学習を進める上では有効な手立てなので、各教科の単元の内容によっては今後も複数の記事使用について検討していく必要がある。また、生徒が読む記事の量については生徒の実態などを考え、指導計画の段階で配慮していきたい。

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究を通して見えてきたこと

指導手引きを構成する4項目について、研究を通して見えてきたことをまとめてみると、次のようになる。

(1) N I E を実践するに当たっての留意点

初めてN I Eを実践してみようと考えている教師にとって、一つの指針になった。今回、授業実践では一斉学習が中心になってしまったが、記事の内容と教師の工夫によりグループ学習の導入も可能になると考える。

新聞記事の収集・保存については、日頃から継続してスクラップノートなどに保存することの必要性を確認することができた。教科の特性によって記事の収集が難しい場合もあるので、指導教科の単元を分析し、意識して記事の保存に心掛ける必要がある。

年間指導計画とN I Eの関係においても、年間を見通した指導計画の中でN I Eの位置付けを明確にすることが大切である。

(2) 学習活動のステップ表

初めてN I Eを教科指導の中で行う教師にとって、ステップ表の活用は指導計画を考えていく上で役立つものであった。ステップ表の左側に新聞の紙面が分類され、横にS T E P 1 ~ 3の学習活動が書いてあり、活用内容を容易に把握できた。

S T E P 1 ~ 3の順で学習活動を進めることが望ましいが、記事の内容によってはそれぞれのステップに沿って進めなくても学習活動が可能であった。

各STEPの学習活動の組み合わせについては、いろいろと考えられることが確認できた。

(3) 「学習活動のステップ表」の活用例

新聞記事を使った活用例が示されていて、ステップ表とのかかわりが一目で分かった。

活用例を通して、他の記事への活用が容易になると考える。

(4) 学習指導案・ワークシート例

ステップ表の学習活動から具体的に指導計画の作成に役立った。学習指導案・ワークシートの作成に当たっては生徒の実態を考慮することが必要であった。

ワークシートは、生徒が記入しやすいものになるように心掛け、ワークシートに記入したりする時間を確保した指導計画を立てることの大切さが分かった。

2 指導手引きの有効性について

本研究会議ではNIEの指導手引きを作成し、授業実践を踏まえて授業評価表などの記入事項から指導手引きの有効性の検証を試みてきたが、手引きの有効性について次のことが考えられる。

- (1) NIEを実践するに当たっての留意点には、NIEを実践する上で基本的な事項が述べられている。生徒のNIEに関しては有効性の確認ができたとは言えないが、新聞記事の収集・保存については日頃から記事のスクラップに心掛けることの重要性を再確認することができた。
- (2) 学習活動のステップ表は、教科の学習に適した新聞記事を、ステップ表のSTEP1～3の学習活動と照らし合わせながら学習指導案やワークシートの作成に生かしていく上で有効であった。ある教科では、授業終了後、授業で使用した記事についてステップ表から学習活動の活用箇所を新たに考えることができた。
- (3) ステップ表の活用例は、新聞記事についてステップ表からの活用箇所を示したもので、活用例を参考にして他の記事の活用箇所を考えたりする上で役立った。いろいろな記事への応用も可能になった。授業実践後の教師による授業評価表の記入において、ステップ表からの活用箇所の有効性についてA(良い)、B(普通)、C(要検討)のうちCと答えた教師がいなかったことから有効であったと考える。
- (4) 学習指導案・ワークシート例は、ステップ表からの活用箇所をもとに作成した学習指導案やワークシートが示されているので、学習活動の流れが分かり、実際にNIEに向けて指導計画を作成するに当たって役立つことが多かった。ワークシートについては、生徒の意見などを知ることができることから有効であった。

以上、今回の授業実践からNIEの授業を立ち上げるに当たって、指導手引きを活用することの有効性が見られたと考える。

3 今後の課題

- (1) 本研究会議では、教科に関する話題を新聞記事に求め、NIEの実施に向けての指導手引きという一つの基本的なモデルを開発し、授業実践をしてきた。今後は、必要に応じて指導手引きに修正や補足を加え、指導手引きの充実を図っていきたい。
- (2) 今回、生徒による自己評価は授業の中で実施できたが、教師によるNIEでの生徒の評価方法については検討していくことが必要である。
- (3) 本研究会議では、教師側からのNIEの試みが主であったが、今後は生徒側からの活動を主に

した展開方法も検討していきたい。N I Eを通して、生徒自らが身の回りの出来事に興味・関心を持ち、主体的に学習に取り組む態度を育成する研究につなげたいと考える。

(4) 情報化社会の中で、何が正しいのか、何が重要であるのかを選択する能力が望まれている。この点において、新聞の読み方を学ぶことによって、自ら学び、考え、判断する力を培うN I Eの活用範囲には大きいものがあるので、さらに研究を深め検討を加えていきたい。

なお、N I Eにおいて新聞記事を印刷して配付する対象が児童生徒以外の場合は、事前に使用する記事について新聞社に「記事等使用申請書」や「使用承諾書」などの手続きが必要であることを申し添えます。

最後に、研究を進めるに当たり適切なご助言をいただきました先生方、研究にご支援、ご助言を下さいました学校教職員の皆様に、心より感謝し厚く御礼申し上げます。

【参考文献】

小田迪夫・枝元一三『国語教育とN I E』大修館書店	1999年
山口満・工藤文三『改訂 高等学校 学習指導要領の展開(総則編)』明治図書	2000年
月刊高校教育編集部『総合的な学習の時間の実践の手引き』学事出版	2000年
妹尾 彰『N I E実践事例集(中学校編)』あゆみ出版	2000年
妹尾 彰『N I E実践ヒント・ワークシート集』晩成書房	2000年
文部省『高等学校学習指導要領解説 総則編』東山書房	2001年
妹尾 彰『N I Eワークシート 100例』晩成書房	2002年
鈴木伸男『こうすればできるN I E』白順社	2002年
小川吉造・松井孝二・今井久仁『高校の情報教育』黎明書房	2002年

【引用記事】

本文中の新聞記事は各新聞社の記事使用承諾済

【指導助言者】

国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部総括研究官 (川崎市総合教育センター専門員)	工藤 文三
川崎市立高等学校長会長(川崎市立川崎総合科学高等学校長)	塩見 幸男
元川崎市立川崎総合科学高等学校校長(川崎市総合教育センター教育相談員)	平出 亨
川崎市教育委員会学校教育部指導主事	松本 芳弘
川崎市総合教育センター研修指導主事	篠原 満